

県域 絶滅危惧Ⅰ類



環境省レッドリスト(2018) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

水槽で飼育するのには向かない。水槽のガラス面に激突する。北潟湖産(移入魚)

コイ科 ハス属

【全長】30cm

ハス

学名: *Opsarichthys uncirostris*

分布域

琵琶湖・淀川水系と三方湖・鱒川水系が自然分布域。

生息域

湖に生息し産卵期に接続河川に遡上する。



オスの背鱗の分枝軟条数は6本。

体形は細長く側扁する。頭部と口は大きく、口は横から見ると噛み合わせが波打っている。日本産コイ科の中では唯一の魚食魚。体色は緑がかかった銀白色。成熟したオスは臀鰭が著しく伸長する。頭部や臀鰭に追星が現れ、腹部が赤くなる婚姻色を示す。産卵期は5~8月で砂礫底に卵を埋め込む様に産卵する。三方湖・鱒川水系と琵琶湖・淀川水系が自然分布域だが、三方湖周辺では近年生息が確認されていない。

水槽での飼育は比較的難しい。成魚は遊泳力が高く、臆病。水槽から飛び出したり、ガラス面に衝突し傷付いたり死ぬことが多い。静かな環境で大きめの水槽で飼育したい。餌は活きた小魚や甲殻類を与える。

在来種

移入種

純淡水魚

※ 三方湖・鱒川水系は本種の日本海側唯一の自然分布地で分布上重要種といえる。北潟湖水系でも極稀に確認されるが、琵琶湖産の移入と思われる。琵琶湖産と三方湖産のものでは形態的に異なる。